



発行日 1997年7月15日  
 発行人 松永然道 編集責任者 福島伸悦  
 発行所 SOTO禅インターナショナル事務局 〒3610003 埼玉県行田市下中条1619-2  
 Tel.0485-57-0999 Fax.0485-57-2347 URL:http://www.pa.airnet.ne.jp/szi  
 振替 00100-6-611195 SOTO禅インターナショナル

## 創立5周年記念号 Vol.10



北米ロサンゼルス禅宗寺75周年記念

# 21世紀への提言 宗門人の果たすべき使命

大本山総持寺副貫首 板橋興宗



理想的な社会になり、理想的な文化生活ができ、すべての願いが思い通りに実現できたら、どんなにか「しあわせ」になれるだろう。これは万人が望む夢であり、希望である。

しかし、文化生活が進み、快適で楽しい生活ができたとしても、それだけで「しあわせ」になれるだろうか。福祉が進み、税金が少なく、収入の多い社会が実現したとしても、それだけで私たちは満足がゆくだろうか。

願い通りに欲求が満たされれば、それで満足し切れると思うのは、はかない夢であり一種の幻想にすぎない。

私たちは「明日がわからない」存在である。願いをかければ、かけるほど不安がつきまとう。どれほど死にたくないと思っても必ず死ななければならない。その上、死んでから先のことまで考えて、さまざまに思

い悩むのが人間の常である。

昔から「少欲知足」ということが言われる。しかし、少欲であれば「足るを知る」人になれるとは限らない。「足るを知る」とこと、欲の多い少ないは、むしろ別な次元であると言いたい。

足るとは何に足りればよいのか。その足るとは「いつ」のことか。ここを問題にする人は少ない。

これは、古くして新しい問題であり、人間として永遠の課題である。

禅はまさしくこれに正面から取り組み、しかもまともに答えを出している。宗門人が果たすべき使命は、この解答を身を以って世界に示すことにある。「知足」の原点を直指することが宗門人の根本使命である。世界救済の根源である。

あらゆる宗教的な運動や社会事業も「知足」が原点になくは、宗門人の本当の宗教活動とは言えないのではなからうか。

## 北アメリカ開教75周年・ 両大本山北米別院禅宗寺創立75周年報告

北アメリカ開教・禅宗寺創立75周年事務局  
SOTO禅インターナショナル事務局  
東京都・長泰寺副住職 大谷有為



北米75周年事務局会議（右端 筆者）

4月18日  
（第1日目）

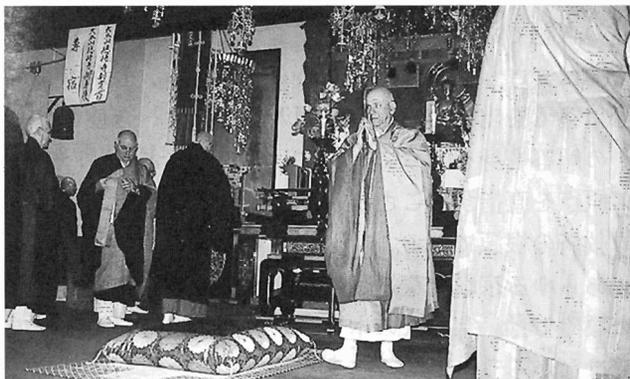
### 曹洞宗北アメリカ開教物故者諷経

伝道教師会代表・米国・パークレー禅センター堂頭・ワイツマン宗純老師の導師のもとに、物故者諷経が厳修された。この法要中に読経された参同契、そして回向は共に英語でなされた。

### 曹洞宗北アメリカ開教師・伝道教師・寺族協議会

協議会に先立ち、宗務庁教化部長・佐藤良彦老師の導師のもとに、開講式が行われた。

その後には、禅宗寺パーキングにてバイキング形式でのランチョン（昼食会）が催され、親睦のひとつき



北米開教物故者諷経（導師 ワイツマン宗純師）

去る4月の18日から20日まで3日間にわたり、アメリカ・ロサンゼルスにある両大本山北米別院禅宗寺にて、曹洞宗北アメリカ開教75周年、ならびに禅宗寺創立75周年の記念式典・法要が厳修された。この式典には、禅宗寺教団、北アメリカの開教師を中心とし、約400名もの方々が出席された。日本からは、宗務総長・大竹明彦老師、総持寺副貫首・板橋興宗老師、永平寺監院・南澤道人老師、総持寺監院・江川辰三老師を初めとする100名を越える諸老師、御尊宿の方々が参集された。また、日本からの寺族関係者・一般の方々も参加されたツアーの団体は3つを数えた。さらに、ハワイやブラジルからも、開教師・寺族を中心とした多くの方々が出席された。



北米開教師・伝道教師会議（挨拶される佐藤教化部長）

がもたれた。

協議会は、禅宗寺ソーシャル・ホールにて行われ、北アメリカ開教師・伝道教師、また宗務庁・両本山を初め多数の宗門僧侶の方が参加された。参加者全員の自己紹介の後、永平寺監院・南澤道人老師より道元禅師750回大遠忌事業に対する理解と協力のお願いがされた。また、開教師・伝道教師からの要望としては、海外で得度を受けた者が本山の僧堂で坐禅ができないかという意見が出された。これに対して、一定期間を設けて僧堂を解放することを検討しても良いという答えがなされたのは、従来の考え方、受けとり方を一歩も二歩も前進したものと思わせた。

### 禅宗寺創立75周年記念晩餐会

晩餐会は、禅宗寺から歩いて10分程の近い距離にあるニューオータニホテルで行われた。約400名もの方々がボールルームに集まった。開式の辞の後、禅宗

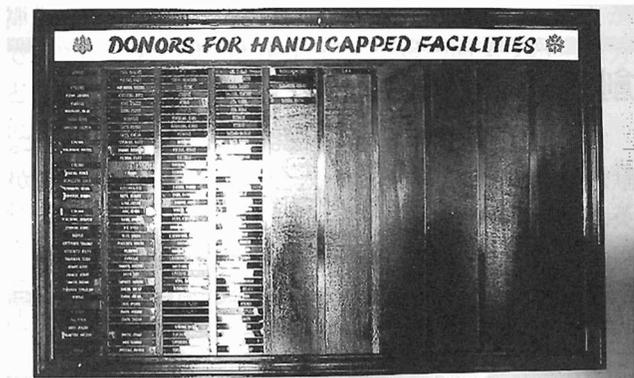
寺教団の理事長・総代の各位より、それぞれ歓迎の挨拶、来賓の紹介がなされた。そして、大竹明彦宗務総長老師をはじめ、多数の祝辞が述べられた。また、SOTO禅インターナショナル会長松永然道老師より、禅宗寺75周年記念事業の一つである身体障害者参詣道建設に対する寄付が贈呈された。



75周年記念晩餐会 (於 ホテルニュー大谷)



障害者用参拝道基金への寄付をSZI会長より手渡される  
(左側から 松永然道師・山下顕光師・武良ベン氏)



本堂入口に掲げられている寄付単

4月19日  
(第2日目)

## 北アメリカ開教75周年記念 <禅をきく会>

第2日目に行われた<禅をきく会>は、北アメリカ開教75周年記念にふさわしく、内容も非常に充実したもの

となった。会場の日米劇場は、午後2時の開演時間を待たずに満席となった。宗務庁教化部長・佐藤良彦老師の挨拶の後、禅宗寺の日系三世・四世の子供達の<禅太鼓>による太鼓の演奏で、オープニングが飾られた。



禅を聞く会  
ロビーにて両大本山写真展

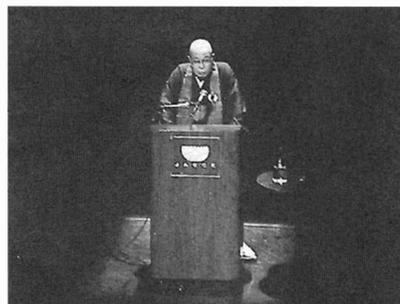
りやすく話をされた。また、自身が作詞された『上を向いて歩こう』のエピソードなどについても話をされ、会場は笑いに包まれた。

板橋興宗老師は、「なぜ人間だけが悩むのか。迷いの根源は、頭で考え概念化した『いのち』を問題にし、現実息づいている『いのち』をおろそかにしていることである。

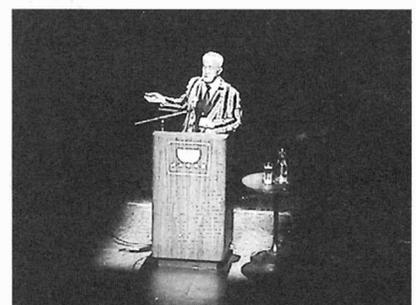


フィナーレ  
「上を向いて歩こう」を全員で歌う

この『いのち』の参究こそが修行の根本である」と話された。この禅話の後には、会場内の全員により、椅子坐禅が行われた。



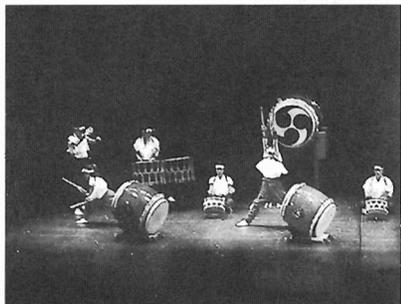
板橋興宗師



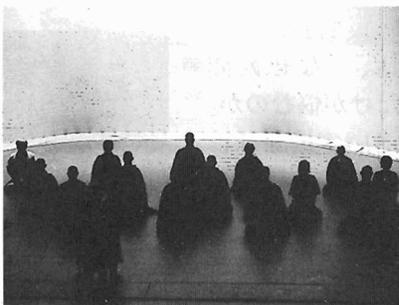
永六輔氏



尺八演奏  
鈴木道雄師



日系3世・4世の  
青少年による  
太鼓演奏



坐禅指導

**4月20日**  
(第3日目)

## 北アメリカ開教センター開所式

第3日目には、北アメリカ開教75周年、両大本山北米別院禅宗寺創立75年記念の盛儀に併せ、「北アメリカ開教センター」開所式がロサンゼルス両大本山北米別院にて、大竹明彦宗務総長を導師に執り行われた。北米各地で



布教活動に携わっている開教師、伝道教師の出席のもと、北アメリカにおける曹洞禅の新たな布教展開の拠点としての期待を担い設立された。開教センター所長には、前ミネソタ禅センター主任開教師・奥村正博師、書記には前禅宗寺駐在開教師・古溪理哉師が就任した。

海外開教はこれまで開教総監部が中心となって行わ

れてきたが、従来の日系人を対象にした時代は既に過ぎ去ろうとし、三世や四世はもとより、いわゆる日系以外の人々を対象とする新時代を迎えている。これに対応し、海外における社会情勢と地域性を把握し、機動性のある時代即応の宗門体制がとられなければならないことは明らかである。そこで開教総監部のもとに開教センターが設立されたわけである。

この開教センターはロサンゼルス禅宗寺の敷地内に事務所を設置し、専従の職員を配置し、常に地域全体の開教に関する情報の収集、布教資料の研究、開教師、伝道教師の育成、交流、一般大衆に対する布教の展開など、まさに開教の本格的活動を行い、曹洞禅の普遍性を広く世界に示していくことが期待される。



北アメリカ開教センター開所式 (導師 大竹明彦宗務総長)

## 両大本山北米別院禅宗寺開山歴住諷經

永平寺監院・南澤道人老師の導師のもとに厳修された。

## 創立75周年慶讃法要

宗務総長・大竹明彦老師の導師のもとに厳修された。献灯献華中には、禅宗寺婦人会によって三宝御和讃が英語にて奉詠された。

## 檀信徒総回向万灯供養



万灯供養

総持寺監院・江川辰三老師の導師のもとに厳修された。禅宗寺本堂の照明を全部暗くした後、檀信徒一人一人の手によって、灯明が捧げられた。

この法要後、山門にて写真撮影が行われ、続いて、禅宗寺パーキングにて盛大な祝斎ビュッフェが設けられた。



退堂される諸老師方  
(右側から 江川総持寺監院・南沢永平寺監院・  
大竹宗務総長・ワイツマン宗純師)

私は今回、この75周年のちょうど2ヶ月前から事務局員という形で、この行持に参加させていただいた。75周年事務局といっても、常に確保できるマンパワーは3、4人といたるところである。午前8時の朝課、ミーティングに始まり、深夜まで業務をこなす日々が続いた。

この間、もちろん75周年記念諸行事の準備が主な仕事になるわけであるが、北アメリカ開教総監部の業務、禅宗寺の寺務・檀務もお手伝いさせていただくことができた。これにより、檀信徒・坐禅会のメンバーの方とも直に接することができ、ほんの少しだけでも海外の寺院を実感することができたと思う。

お寺とメンバーの結びつきは非常に強いもので、それは日本の寺院以上のものがあるろう。お寺を訪れる皆さんが、日本を求めて、日本を感じようとしていることを、私は肌で感じた。つまり、それだけに、行持や法要も非常に多いことになる。月に一度ないしは、そ



抹茶の接待

れ以上のペースで大きな様々な行持が行われているのである。

また、教団の運営に関しては、理事会において協議し、決定される。開教師の仕事は、葬儀・法事のような宗教儀式の執行と寺務全般が主なものとなる。そして、赴任してくる開教師が数年経つと日本に帰っていくことと併せてみると、教団内において開教師は一雇用者であるという意識が存在、浸透しているように思われる。

このような様々な諸事情、そして多くのメンバーを抱えた寺院の檀務・寺務に加え、そこに開教総監部の業務が混在しているという現状などを鑑みると、本来の曹洞禅の海外開教ということも、なかなかままならないものがあるのではないかということを実感せざるをえなかった。ただ、もちろんこの点に関しては、他の海外寺院・禅センター等の御苦勞を体験していないので、一概には言えないとも思える。

この75周年を機に、開教総監部内に〈北アメリカ開教センター〉が設立された。実質的には、総監部の業務を禅宗寺から切り離し独立させることになると思われる。このセンターの設立は、これからの海外開教、そして宗門の将来を見据えたファースト・ステップであり、来る21世紀へ向けての新たな着実な一歩といえよう。



屋外での昼食風景

## 北米総監部人事

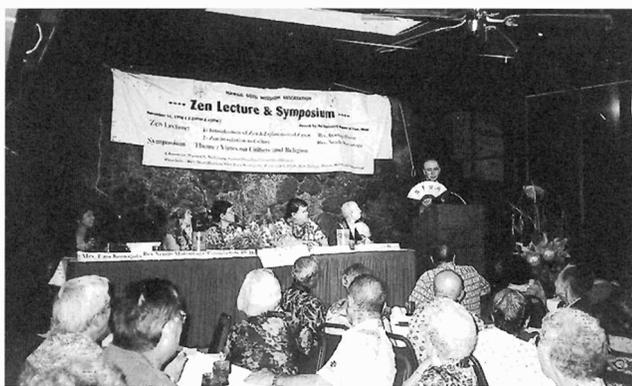
開教センター設立に伴い、総監部人事も一新された。永年に亘って総監として北米をとりまとめてきた山下顕光師が勇退し、オークランド好人庵主任開教師・秋葉玄悟師が総監に任命された。参事には桑原弘之師、書記に横山泰賢師が就任した。

また、サンフランシスコ桑港寺主任開教師・細川正善師は20年の開教生活にピリオドをうち、自坊・福島県猪苗代町・天徳寺に戻られた。後任には、南原一貴師が就任した。

## 続・マウイ満徳寺創立90周年記念法要 仏教国際親善ハワイの旅レポート

愛知県地藏寺副住職 浅井 宣 亮

### パネルディスカッション



シンポジウム ゲストスピーカー・松永然道SZI会長

夕食の後、ハワイ大学歴史学センター主任・西本ウォーレン氏の司会進行で「自分が考えている文化と宗教について」というテーマでパネルディスカッションが行われた。パネリストとして、ハワイの民俗宗教の祭司であり、クム・フラというハワイの伝統的な踊りの指導者であり、警官でもあるディーン・ハーベスト氏、オアフ島のワヒアワ龍仙寺主任開教師である駒形宗彦師夫人であり、ハワイの太鼓の指導者でもある駒形フェイ氏、マウイ・コミュニティー・カレッジ哲学科の先生であるパトリシア・ライフ氏、ベナージュ・大円師、松永然道会長が招かれた。

### 宗教は文化の一側面

はじめに西本氏が、「自分の受け持っている学生のほとんどは、歴史が嫌いといいます。それはコロンブスなどといった名前を暗記するだけの退屈な科目であると思っています。しかし、自分の目上の人から話を聞いたりすることも歴史を学ぶということです。

そして、「文化」とは「生き方」を意味します。したがって、文化とはその社会の慣習・伝統・言語・宗教などから構成されます。つまり、宗教は文化の一側面となっています。

現在のハワイの文化は、日本文化・伝統的ハワイ文化・アメリカ文化などの影響を強く受けています。ここマウイ島では、マウイの文化の影響も大きいでしょう。

また食べ物も文化の一側面を担っているといえます。このように見た場合、宗教も文化の一側面に過ぎないといえるのではないのでしょうか。」と、文化と宗教の関係を述べた。

### 伝統を次世代へ

ハーベスト氏は、「宗教とは価値判断の基準となるものである。19世紀初頭、西欧文化がハワイに流入して、ハワイの伝統的宗教は崩壊してしまった。20世紀になるとハワイは合衆国の一つの州となり、西欧式教育も導入された。その結果、子供達はハワイ語を使わなくなってしまった。

しかし最近になって、ハワイ固有の文化の価値を再認識しようとする傾向が見られるようになってきた。クィーンホスピタルというハワイ人であれば無料という病院も建設された。

文化的価値（宗教）は変容していくが、伝統を次世代に伝えていくことは重要なことでしょう。」と述べた。

ハーベスト氏はこの発表の後、筆者のインタビューに対して、「伝統的ハワイ文化では、雨・風・海・空・火は一つであると考え、調和を大切にし、物質ではなく精神性を重視していた。これは伝統的日本文化と類似していると思う。日本文化には伝統があり、尊敬している。ハワイにおいては、日本文化とハワイ文化とはお互いの本質を維持したまま融合することが可能ではないだろうか。しかしながら、アメリカ文化とハワイ文化の融合は難しいだろう。」と、文化間の関係について答えている。

### 文化的価値の変容

次いで、駒形氏は、自己の半生を語るにより日本文化・アメリカ文化・日系寺院の関連を提示した。「現在の自分の親戚は、どうしてハワイに来たのか、またかつて日本ではどんな文化を持っていたのかと尋ねても答えられない人が多い。日本語が全く話せない人が大部分です。しかし、もち・そばを正月に食べるのは好きです。このようなことは、母などの家族から教わりました。「ありがとう・もったいない」などという価値観は家族で共有することができると思います。

学生時代の記憶には、お寺に関しては花祭り・日曜学校・盆踊り・家族の法事などがあります。これら以外にも、紙細工・合気道などといった日本的なものを学びました。その一方、バイオリン・ピオラなども学びオーケストラに所属していました。



人生は新しいことにチャレンジしていくことだと思っています。」

そして西本氏はこの話に対し、「これは、文化は大きく変容しているということの具体例であろう。」というコメントを付け加えた。

## 禅は宗教・文化を越えたもの

ライフ氏は、「禅は哲学であり、知恵です。禅は私の人生をきれいにしてくれます。現在、地球では、環境破壊が進んでいます。これは他人事ではありません。我々はこの地球上にいるのです。そして、我々の仏性も今ここにあるのです。」

ベトナム戦争が起こり、アメリカでは多くのドロップアウトが生まれました。彼らは、人の本性とは何かと問うていました。肌の色・言葉・文化・宗教などの相違にかかわらない、人間の本性とは“仏性”でしょう。したがって、仏性を説く禅は、文化・宗教を超越したエッセンスです。」と、禅が宗教・文化を越えたものであると強調した。

## 縁を説く重要性

大円師は、日本語と英語の違いについて指摘した。「英語では、I（私）から始まり、時間・空間に広がっていきます。しかし、日本語では時・場からIが規定されます。現在、アメリカでは個人主義が強すぎます。そしてそれがさまざまな問題を生じさせる原因になっています。日本的な、縁が私を動かしているという概念は、現在のアメリカでは非常に有意義なものでしょう。」

## 伝統も縁によって変容する

大円師の発表に続き、松永会長は、“風性常住”つ

まり風があるから旗が動くのか、旗が動くから風があるのかといった公案を引用し以下のようにまとめた。「自分・これ・あれなどといった相違は、自分がそれを認めるからであるのです。すべては、自分たちの心の中に存在します。そして、他が認識するから自があります。つまり、完全に独立した存在というものは存在しません。」

伝統も同様に独立した存在ではありません。伝統が変わっていくことを残念に思う人がいますが、伝統も縁によって変わっているのです。我々を取り巻きサポートするもの、つまり環境が私たちを作っています。私達が今ここにいることを、感謝しましょう」

こうしてシンポジウムは盛況の中終了した。この後“ハワイ祭り太鼓”の演奏で、我々をもてなしていただき、非常に楽しく過ごすことができた。

翌17日は、200名余りの出席者を集めた中で、午前9時より満徳寺において、開山歴住忌・檀越先亡累代諷経が松浦玉英ハワイ開教総監の導師のもとで執り行われた。次いで、大竹明彦宗務総長の導師のもとで、満徳寺創立90周年記念慶讃法要が執り行われた。

この後、祝賀昼餐会が開催されたが、ここでも、太鼓で我々をもてなしていただいた。ロサンゼルス禅宗寺においても、ハワイ日系寺院においても、太鼓は非常に盛んである。仏教とは直接関連はないかもしれないが、子供達とその親、また若者を寺院に親しませる方策としては非常に成功しているといえるだろう。



清興 ハワイ祭り太鼓



S Z I 主催 ツアー参加者

SZIだより

## シンポジウム ハワイ布教を考える会

SZI事務局より飯島尚之師パネラーとして参加

去る2月19日、浄土宗総合研究所主催によるシンポジウム「ハワイ布教を考える会」が増上寺において開催された。浄土宗総合研究所の鷲見定信師による司会進行の下で、浄土宗・水谷浩志師、曹洞宗よりSZI飯島尚之師、日蓮宗・木内隆志師、浄土真宗本願寺派・林安明氏、真如苑・瀬尾勤三師らが講師としてそれぞれの現状、問題点を発表した。そして休憩の後、浄土宗総合研究所・武田道生師によるコメント、全体討議が行われた。今回のシンポジウムでは、特に浄土真宗と真如苑のケースは曹洞宗と異なる点が多く参考になった。この二宗の発表の要旨は、次のようなものである。

浄土真宗は米国日系移民の中では最も勢力があり安定している宗派であるが、林師はその要因として、

1. 日本人としてのアイデンティティの付与、
2. 地区単位の布教、
3. 社会奉仕、
4. 仏教教育、
5. 教義の平易化等

をあげた。以下はその具体例である。

- ①メンバーに対して、銀行と提携して本願寺のマーク入りクレジットカードを発行し、寺院への帰属意識を高める。そして、買い物に使用した額の1%が銀行より寺院に支払われるため、寺院の会計にも貢献している。
- ②開教師を寺院ごとではなく地区に派遣し、会計も地区ごとに行う。これにより、開教師の数を少なくできメンバーの経済的負担を減少できる。また、地区で建立した寺院がメンバーの平均年齢が40代という活力のある寺院になっているという例もある。
- ③欧米ではキリスト教の影響により宗教は社会奉仕するものという意識が強い。ホノルルの寺院では“ジョンソン&ジョンソン”の基金の援助を得て、プロジェクト・ダーナという老人介護の活動を行っている。
- ④アメリカの神学校と提携している米国仏教大学院（IBS）があり、僧侶資格と共に修士号も与えることが出来る。（この後、日本で得度）
- ⑤アメリカでは漠然とした言葉で“なんとなくわかる”

という教えは受け入れられ難く、教義の平易化・英訳が求められる。真宗では20年計画で親鸞の著作を全巻翻訳するという事業を進めてきて、1997年6月に修了する予定である。今年からは、他の祖師の著作の翻訳が20年計画で始まる。このような活動を通じて、現在、布教のためのテキストは豊富である。

真如苑の場合、新宗教では一般的な在家布教のスタイルを採用している。つまり、布教師が布教するのではなく在家信者が布教活動を行い、布教師は信者の教化力をつけるために派遣される。そして、その任期は半年である。これは、派遣されることが布教師に対して多大な制約とならない、個人のカラーが強くなることを防ぐ、日本との関係を密にするなどの意味も持つ。このように、布教師の任期を短くした場合、布教師の英語力が問題となり易い。しかし、真如苑では通訳を使うことによりこれに対処している。また、修行は日本と同じ日時に同様の形態で修される。つまり、法話は通訳を介して日本語で行われ、読経も日本語で行われる。そして法要は、立川にある本部のビデオを上映しながら遂行される。このようなスタイルは日系人に日本人という意識を持たせるには有効だろう。

このシンポジウムのように、他宗派の海外布教の現状に触れる機会を持つことは、海外布教の未来像を探っていく上で非常に有意義であった。今後も、他宗との交流を密にしたい。

（レポーター・浅井宣亮）



シンポジウム「ハワイ布教を考える会」

# 「アメリカにおける女性の禅指導者を支援する会」発足の趣旨と協力をお願い

—ベナージュ大圓師を中心に—

青山俊董



バレリーナーとしての道を歩んでいたベナージュ大圓師は、少女時代より日本の文化や禅に深い関心を寄せ、長い準備期間を経て、遂に縁が熟し、昭和54年3月に出家得度し、以来8年間、名古屋の愛知専門尼僧堂で修行されました。

特別尼僧堂、師家養成所も修了された師は、数年前アメリカへ帰られ、懸命の努力をしておられます。無量寺にも何度も足を運んでいただきました。

今秋10月後半の半月間を、ペンシルバニア州の大圓師の道場を始め、ニューヨークの禅コミュニティ、マサチューセッツ州のハーバード大学、サンフランシスコ、ロサンゼルス等々、約十会場で坐禅と講演をするべく招請を受け、訪米の旅に出る予定です。

現在の日本の私共が1500年にわたって仏教の恩恵に浴することができる背景には、玄奘三蔵法師や達磨大師を始め、多くの先達方が、命をかけてインドから中国へ仏法を伝え、更に鑑真和上・弘法大師・道元禅師等、数えきれない方々の捨身の願行によって、中国から日本へと仏法をお伝えいただいた御苦労があるのです。その洪恩を思うとき、今、日本より欧米へ仏法をお伝えするお役目をうけたまわることができる光栄と責任の重大さを思い、又彼の地で懸命の努力をされていて下さる開教師の方々への、少しでもお手伝いできればと思い、この度「アメリカにおける禅指導者を支援する会」を発足させました。(別項の趣意書を御参照下さい)。同時に彼の地の道場への基金の一部にもなることを念願し、6月1日に催す恒例の野良着茶会において、私の貧しい墨蹟の頒布会も計画致しました。御理解ある御協力をお願い申し上げます。合掌

## マウント・エクィティ禅堂 (平等山禅堂)

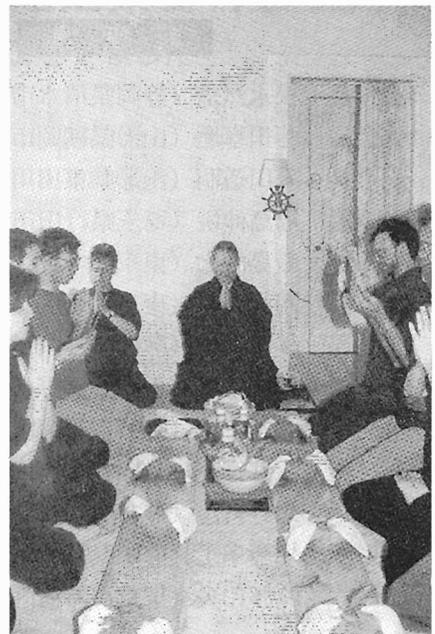
マウント・エクィティ禅堂は、ベナージュ大圓師が1991年に日本から帰国し、母親の世話をしながら、坐禅修行を始めた時に生まれた。マウント・エクィティ禅堂は1809年にクエーカー教徒の女性によって建てられた、古い石作りの建造物である。彼女はそれを「聖者の安息所」と名付けた。この建物はマウント・エクィティと呼ばれるちいさな丘の上であり、ちいさな森と中央ペンシルバニア北部の村のトウモロコシと大豆の畑に囲まれている。この建物は今、9つの部屋にわかれており、最初に坐禅をしたのは創設者の母親の居間であった。もうひとつの部屋が使えるようになり、これがマウント・エクィティ禅堂となって、6人の修行者が週末接心やその他のリトリートのために宿泊できるようになった。大都市地域や大圓師を指導に招いたクエーカー教センターから、口コミで人が来るようになった。長年の間により多くの部屋が使用可能になっていったので、禅堂の他にも、女性用宿泊部屋、男性用宿泊部屋、来堂した指導者のための特別宿泊部屋ができ、いまでは20人が宿泊できるようになった。

受戒をしたいと頼みにくる修行者の数が増え続けている。彼らのなかには、大都市地域から来る真摯な修行者達や、大圓師の母親(楽円)や刑務所内の長期修行者数名が含まれている。

マウント・エクィティ禅堂の目標は二つある。一つは、遠方に住んで、修行にまじめに取り組み、それぞれ異なる個人的事情を持つ大半の修行者達に対し、道元禅師の教えに従った真剣で確かな禅修行をする機会を与えることである。もう一つは坐禅とカウンセリングを通して、心の平安

を求めている地域の人達が「目覚めた道」に接することができるような方法を見出すことである。たとえば、椅子坐禅を行じているお年寄達、近郊の6か所の刑務所に投獄されている囚人達、ストレスの多い状況下にある、あるいは飛行機事故で友人を失ったショックから回復中の十代始めの若者達、地域の諸大学の学生達、多くの民族的、文化的背景を持つ者達、慢性あるいは危篤な健康上の問題をかかえた人達などである。お互いのグループが相互に助けあって成長をとげることが理想と考えている。

将来的にはキーストン州(ペンシルバニア州)、そしてその外の多くの人々に「目覚めた道」を提供する可能性を拡大できるよう、マウント・エクィティ全部を購入できたらと考えている。



展鉢する参禅者

# 総会報告



SZI総会記念写真

去る2月20日（木）午後1時より、1997年度SZI総会が、東京グランドホテル三階「菊」の間において開催された。

この総会に先じて、松永然道会長導師により、海外開教師示寂者追悼会が厳修された。引き続き、副会長・藤川享胤師の開会の辞、会長の挨拶、そして、来賓として、教化部長・佐藤良彦老師の挨拶を賜った。そして、峰岸正典師が議長に選出され、議案が討議された。

事務局より1996年度の事業報告、会計報告、会計監査報告がなされ、満場一致で承認された。次に規約改正案 ①役員に事務局次長を追加 ②役員任期二年 ③評議委員会を設置の三件が提出され満場一致で承認された。そして役員改選に当たり、新役員案が満場一致で承認された。新役員は下記の通り。

## 新役員

- 会長 松永然道（静岡県清水市・宗徳院住職）  
 副会長 藤川享胤（山形県鶴岡市・般若寺住職）  
 副会長 采川道昭（山形県東田川郡・宝泉寺住職）  
 事務局長 福島伸悦（埼玉県行田市・興徳寺住職）  
 事務局次長 飯島尚之（東京都中野区・宗清寺副住職）  
 会計 西沢応人（東京都豊島区・祥雲寺住職）  
 事務局 長田敬道（静岡県静岡市・洗耳寺住職）  
 黒柳博仁（長野県長野市・天周院副住職）  
 大谷有為（東京都新宿区・長泰寺副住職）  
 浅井宣亮（愛知県大府市・地藏寺副住職）  
 亀野哲也（神奈川県横浜市・貞昌院副住職）  
 監事 加藤孝正（静岡県富士市・永明寺住職）  
 滝澤和夫（東京都新宿区・東長寺住職）

引き続き、1997年度事業計画案、会計予算案が事務局から提出され、満場一致で承認された。その後、質疑応答に移り、横浜善光寺留学育英会理事長・黒田武志師よりご自身の体験を通して「SZIへの期待と責任が増してきていますが、もっと開教師支援基金を増やす方法を考え、実質的な支援活動をしていただきたい」との意見が出された。午後2時30分、滞りなく総会は閉会となった。

この後、創立5周年を記念して「情報化時代における仏教の新たな可能性」と題し、武田道生先生（大正大学、東洋大学、早稲田大学非常勤講師）をお迎えし、記念講演会が行われた。（この記念講演録は、小冊子にまとめます。）

この後、同会場にて、懇親会が行われた。懇親会には、大竹明彦宗務総長はじめ、佐藤良彦教化部長、山本健善国際課長、善波俊典師らが出席して下さり、海外布教に関しての情報交換なども行われ、有意義なひとときであった。又、昨年SZI主催で行ったハワイ・マウイ満徳寺90周年参拝ツアーに参加した方々も出席され、写真交換やら楽しかった思いで話に花を咲かせた。

## 事務局活動日誌

（1996年12月20日～1997年5月31日）

### 1996年度

- 12月24日 北米75周年説明会 埼玉第1宗務所  
 12月26日 事務局会 行田・興徳寺  
 12月27日 北米75周年説明会 埼玉第1宗務所内寺院

### 1997年度

- 1月10日 北米75周年説明会 埼玉第1宗務所  
 1月15日～17日 会報9号発送作務 行田・興徳寺  
 1月28日 役員会 宗務庁第2ソートービル  
 2月12日 事務局会 池袋・祥雲寺  
 2月13日 LA寄付依頼状発送作務 行田・興徳寺  
 2月17日 総会資料作成 中野・宗清寺  
 2月19日 浄土宗シンポジウム 東京・増上寺  
 2月20日 総会 東京グランドホテル「菊」の間  
 3月31日 事務局会 宗務庁第2ソートービル  
 4月18日～20日 LA禅宗寺75周年 北米・ロサンゼルス  
 5月7日 事務局会 池袋・祥雲寺  
 5月29日 役員会 大本山総持寺



